

# 平成23年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」結果について

平成23年10月  
内閣府

## 1. 調査目的

青少年及びその保護者を対象として、インターネットの利用状況、フィルタリングの認知及び普及の状況並びにフィルタリングの改善ニーズ等を調査し、青少年インターネット環境整備法の施行状況のフォローアップのための基礎データを得る(平成21年度より継続実施)。

## 2. 調査設計

- 方法：調査員による個別面接方式
- 対象：①平成23年8月31日現在で、満10歳から満17歳までの青少年(3,000人)  
②上記青少年の同居の保護者(3,000人)
- 期間：平成23年6月9日～6月26日
- 回収結果：①青少年調査 1,969人(65.6%)  
②保護者調査 2,037人(67.9%)
- 企画分析会議：委員長 藤原 静雄 (中央大学法科大学院 教授)  
委員 生田 倫子 (神奈川県立保健福祉大学 講師)  
国分 明男 ((財)インターネット協会 副理事長)  
小豆川 裕子 ((株)NTTデータ経営研究所  
ソーシャルイノベーションコンサルティング本部 シニアスペシャリスト)  
西田 光昭 (千葉県柏市立高田小学校 教頭)

## 3. ポイント

- ◆引き続き、青少年による携帯電話等を通じたインターネット利用が常態化。(p3～p5)
- ◆青少年の携帯電話におけるフィルタリング利用率はやや伸び悩み。一方、携帯電話の購入時期別に見ると、増加傾向。また、啓発経験のある保護者の利用率の方が高い。(p9, p13, p14)
- ◆青少年のインターネット利用について、青少年の実態と保護者の認識との間にギャップが見られる。(p20～p22)

## 4. 概要

### ○青少年の携帯電話の所有状況とインターネット利用状況

- 携帯電話の所有は、小学生では約2割、中学生では4割台後半、高校生では9割台後半。携帯電話を所有する青少年のうち、小学生の7割半ば、中学生と高校生のほとんどが携帯電話でインターネットを利用。(p3)
- 所有する携帯電話のうちスマートフォンは、調査時点では限定的(小学生:ゼロ、中学生:約5%、高校生約7%)であるものの、「H22年度」の調査結果と比較して増加。(p4)

### ○青少年のパソコンの使用状況とインターネット利用状況

- パソコンの使用は、小学生では8割強、中学生では8割半ば、高校生では8割台後半。パソコンを使用する青少年のうち、小学生の約7割、中学生の8割台前半、高校生の約9割がパソコンでインターネットを利用。(p5)

### ○青少年のインターネット上の経験

- 青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験をしている青少年の割合は、「H22年度」の調査結果に比べ、いずれの学校種においても大きな変化はない。(p6)
- 2時間以上携帯電話でインターネットを利用している青少年の7割半ばが、トラブル等経験有り(p7)

➤携帯電話のフィルタリングの有無別に見ると、ほぼすべての項目においてフィルタリング無しの方が有りよりも経験率が高い。(p8)

### ○フィルタリングの利用状況等

- 携帯電話のフィルタリングは、小学生で7割台後半、中学生で約7割、高校生で約5割と、「H22年度」の調査結果から大きな増減は見られない。携帯電話の購入時期別に見ると、概ね増加傾向。(p9)
- 携帯電話のフィルタリングを利用しない理由は、「(保護者が)子どもを信用している」が最も多く、次いで「特に必要を感じない」が多い。(p10)
- 携帯電話購入の際に、子どもの使用を申告した保護者の割合は9割弱。(p11)
- 携帯電話購入の際に、販売業者からフィルタリングに関する説明がなかったと回答した保護者の割合は約1割強と、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較して減少。携帯電話の購入時期別に見ても概ね減少傾向。(p12)
- パソコンのフィルタリングは、小学生で3割弱、中学生で3割台前半、高校生で2割台後半と、「H22年度」の調査結果から大きな増減は見られない。(p13)
- 携帯電話においてもパソコンにおいても、保護者の啓発経験有りの方が無しよりもフィルタリングの利用率が高い。(p14)

### ○「家庭のルール」

- 携帯電話について「家庭のルール」有りは、小学生では約6割、中学生では7割弱、高校生では5割弱と、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較すると、いずれの学校種でも減少。(p15)
- 携帯電話の購入時期別にみると、平成22年度以前は5割台であるのに対して、平成23年度は6割台前半。青少年の学習経験の有無別に見ると、学習経験有りの方が無しよりも「家庭のルール」有りが多い。(p16)
- パソコンについて「家庭のルール」有りは、小学生と中学生では5割台前半、高校生では3割台後半と、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較すると、小学生と中学生で最も低い数値。(p17)

### ○保護者の管理(ペアレンタルコントロール)

- 保護者の管理(ペアレンタルコントロール)では、関心を持つこと(4割半ば)が最も多く、「子どもと話し合うこと」(約4割)、「ルールを設けること」(3割半ば)が続く。(p18)
- 保護者が求める必要な取組は、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と同様、「有害サイトへの規制強化」と「家庭の取組への支援」が高い。(p19)

### ○青少年の実態と保護者の認識とのギャップ

- 青少年の携帯電話によるインターネット利用について、いずれの学校種でも青少年の回答が保護者の回答を上回っている。(p20)
- 青少年のインターネット上のトラブル等の経験について、小学生では青少年の回答が保護者の回答を下回っているのに対し、中学生ではほぼ同じとなり、高校生では青少年の回答が保護者の回答を上回っている。(p21)
- 携帯電話について「家庭のルール」有りについて、いずれの学校種でも青少年の回答が保護者の回答を下回っている。(p22)

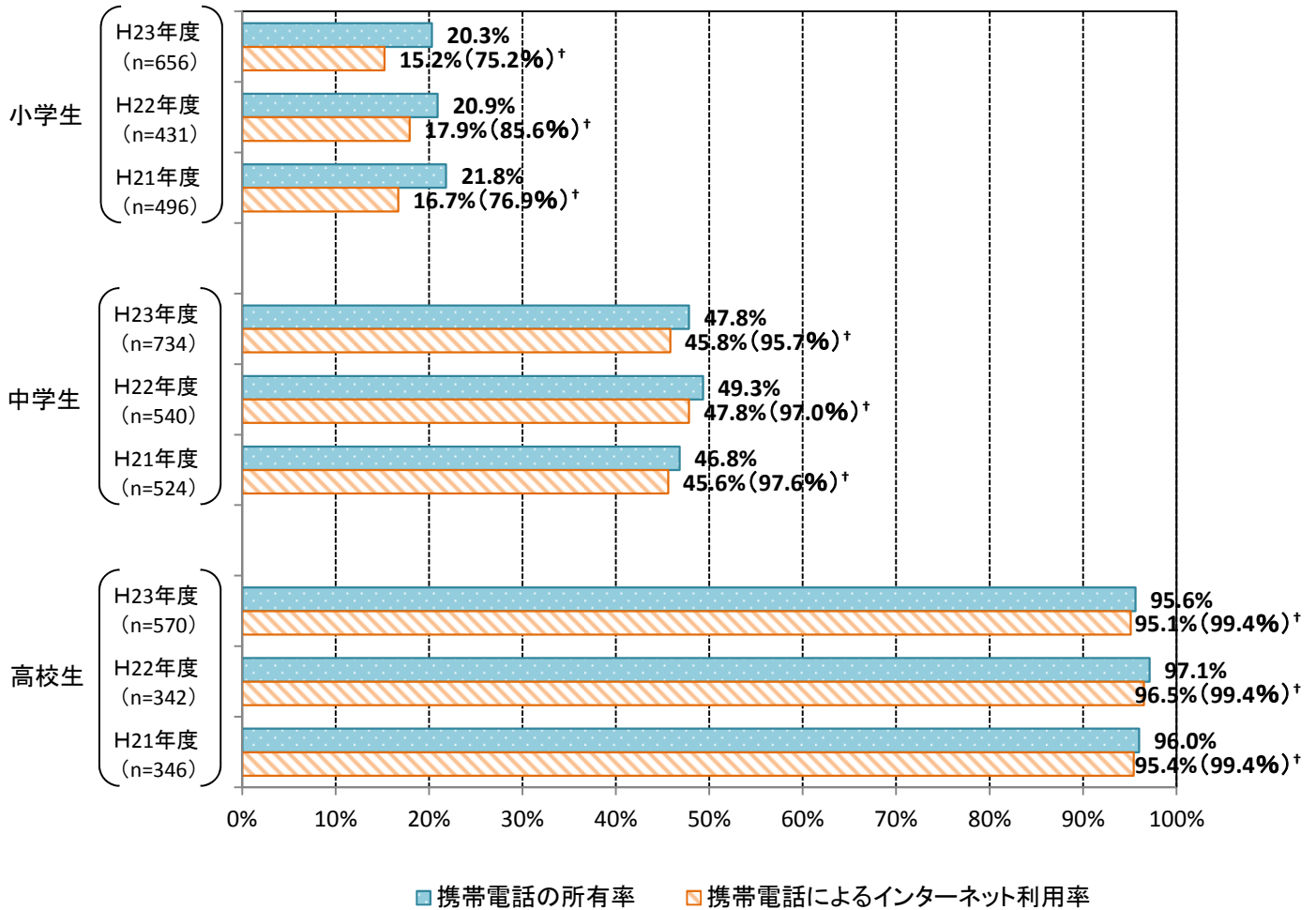
## 所有率とインターネット利用率(携帯電話)

(青少年調査Q1、4・5)

○携帯電話(PHSを含む。以下同じ。)の所有率は、小学生では約2割、中学生では4割台後半、高校生では9割台後半とほとんどが所有。携帯電話を所有する青少年のうち、小学生の7割半ば、中高生のほとんどが携帯電話でインターネット(メールを含む。以下同じ。)を利用。

○「H21年度」<sup>\*</sup>及び「H22年度」<sup>\*\*</sup>の調査結果と比較すると、携帯電話の所有率も、携帯電話によるインターネットの利用率もともに大きな違いはない。

青少年の携帯電話の所有率とインターネット利用率



<sup>†</sup> 「携帯電話によるインターネット利用率」の数値は、括弧外の数値が総数(携帯電話を持っていないと回答した青少年を含む)をベースに集計、括弧内の数値が携帯電話を持っていると回答した青少年をベースに集計。

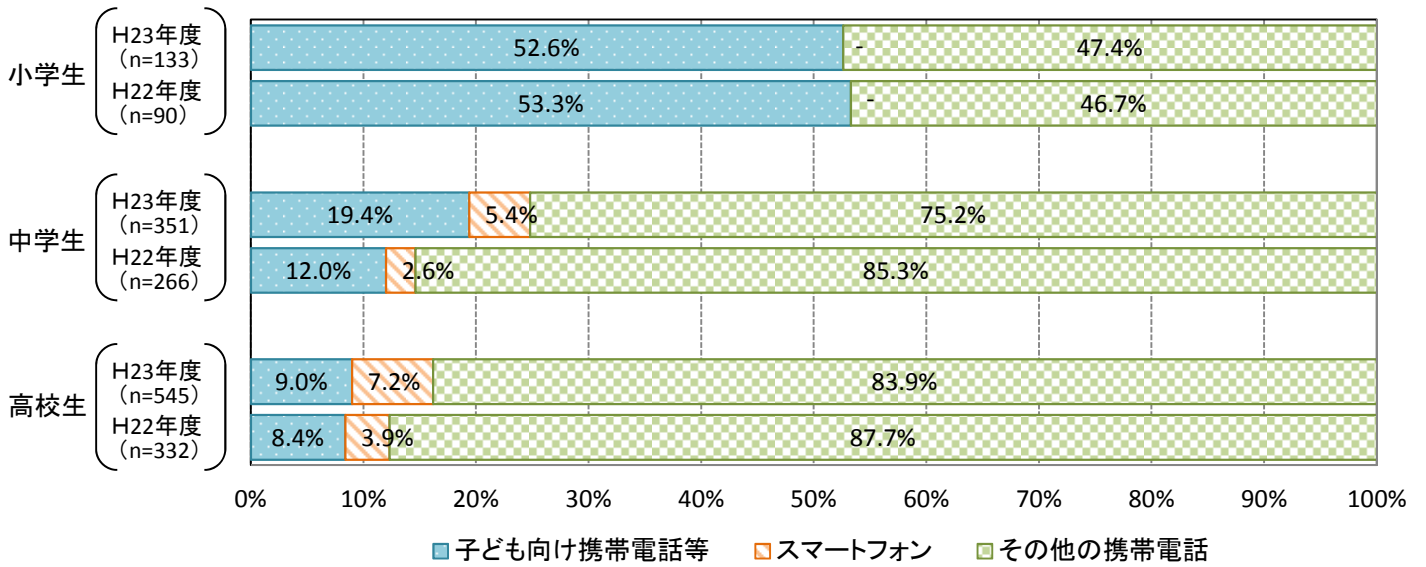
<sup>\*</sup> 「H21年度」調査(内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」)は、平成21年10月22日から11月8日に実施(平成22年4月公表。<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h21/net-jittai/html/index.html>)。以下同じ。  
<sup>\*\*</sup> 「H22年度」調査(内閣府「平成22年度青少年のインターネット利用環境実態調査」)は、平成22年9月1日から20日に実施(平成23年2月公表。<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h22/net-jittai/html/index.html>)。以下同じ。

# 青少年の所有する携帯電話の種類

(青少年調査Q2)

○青少年が所有する携帯電話の種類についての青少年調査の結果を見ると、調査時点では、スマートフォンの所有は限定的(小学生:ゼロ、中学生:約5%、高校生約7%)であるものの、「H22年度」の調査結果と比較すると、中学生と高校生において増加が見られる。

携帯電話の種類

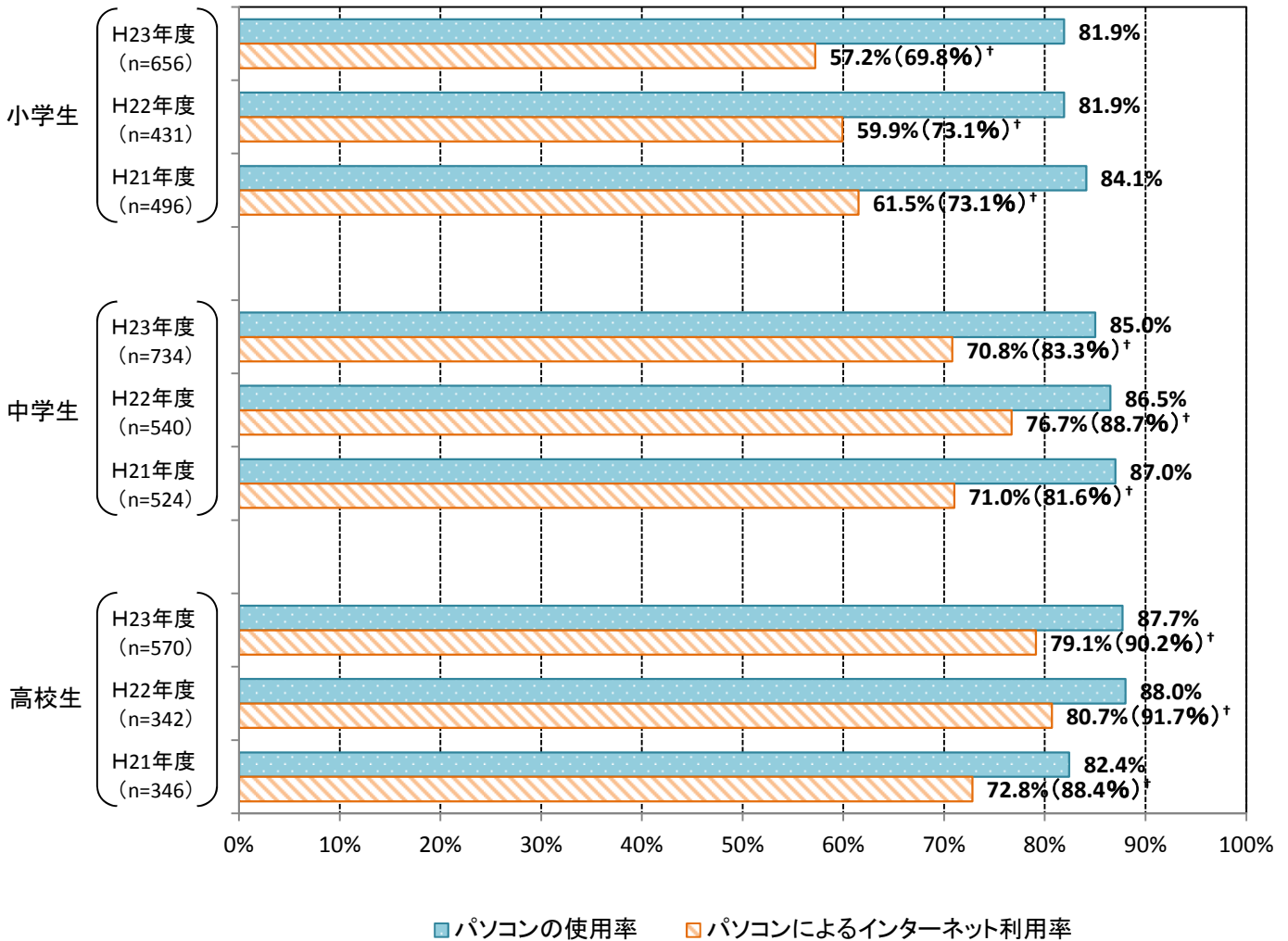


## 使用率とインターネット利用率(パソコン)

(青少年調査Q10、12・13)

- パソコンの使用率は、小学生では8割強、中学生では8割半ば、高校生では8割台後半。パソコンを使用する青少年のうち、小学生の約7割、中学生の8割台前半、高校生の約9割がパソコンでインターネットを利用。
- 「H21年度」及び「H22年度」の調査結果と比較すると、小学生と中学生では、使用率もインターネット利用率もともに最も低い数値となっている。

青少年のパソコンの使用率とインターネット利用率



† 「パソコンによるインターネット利用率」の数値は、括弧外の数値が総数(パソコンを使用していないと回答した青少年を含む)をベースに集計、括弧内の数値がパソコンを使用していると回答した青少年をベースに集計。

パソコンの使用につき、「(学校、友だちの家以外の)その他自宅以外の場所でパソコンを使っている」とした回答

- 小学生: 1.5%
- 中学生: 0.4%
- 高校生: 0.9%

パソコンの使用につき、「マンガ喫茶やインターネットカフェのパソコンを使っている」とした回答

- 小学生: -
- 中学生: 0.5%
- 高校生: 0.4%

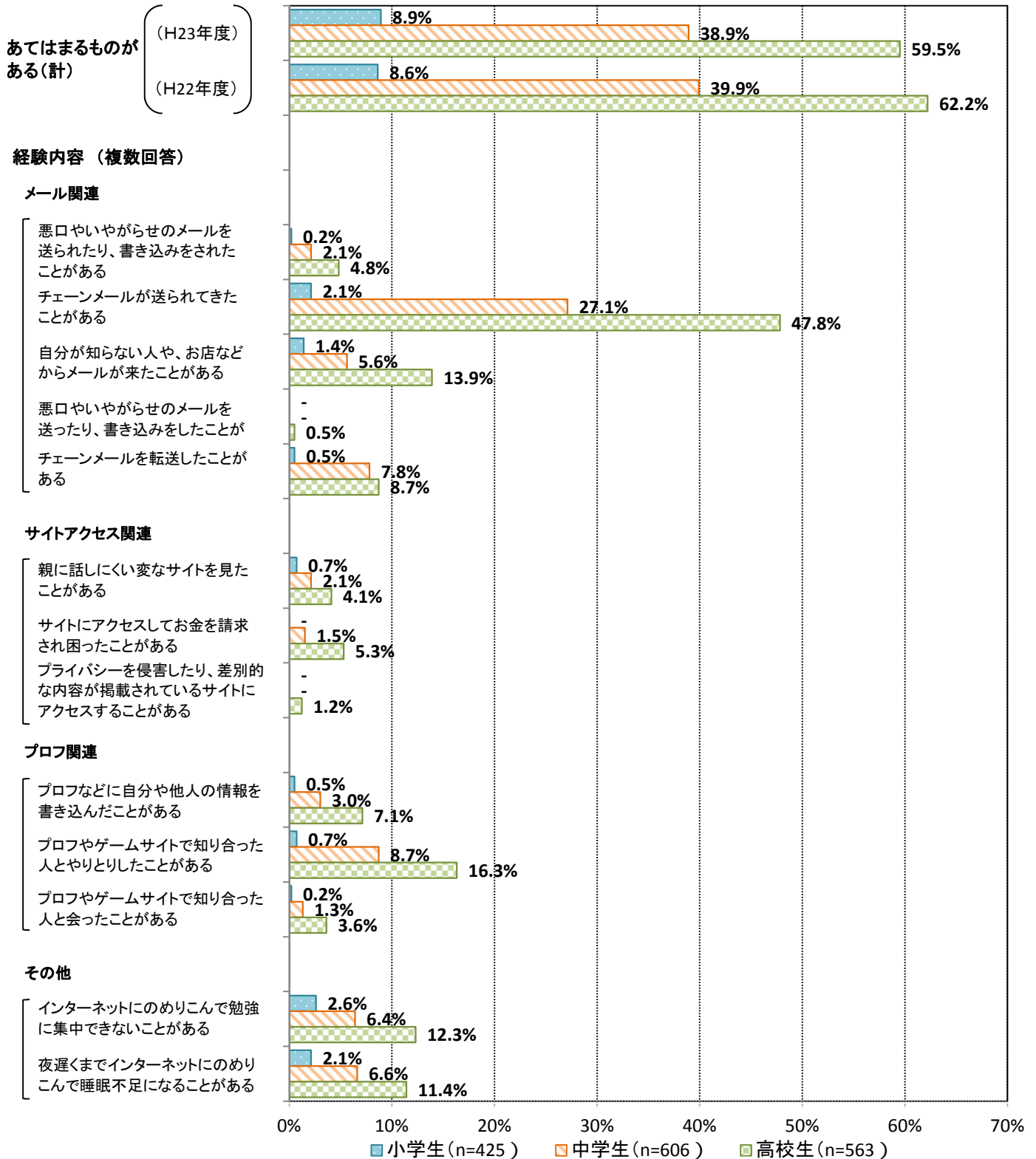
# 青少年のインターネット上の経験

(青少年調査Q18)

○青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験は、小学生を除いて、「チェーンメールが送られてきたことがある」との回答が最も多い。

○なんらかの経験に「あてはまるものがある(計)」との回答について「H22年度」の調査結果と比較すると、いずれの学校種においても大きな違いは見られない。

## 青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験



# 青少年のインターネット上の経験【携帯電話のインターネット利用時間別】

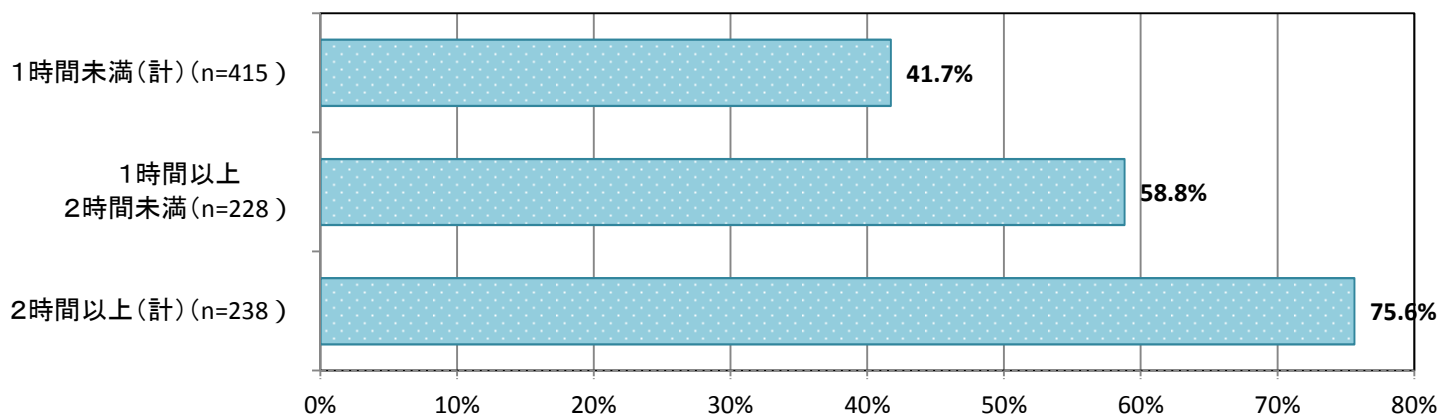
(青少年調査Q18×Q6)

○青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験について携帯電話のインターネット利用時間別に見ると、利用時間が長いほどなんらかの経験をしている割合は概ね高い傾向にある。特に利用時間が2時間以上になると、7割を超える。

## 青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験【携帯電話のインターネット利用時間別】

	悪口やいやがらせのメールを送られたり、書き込みをされたことがある	チェーンメールが送られてきたことがある	親に話しにくい変なサイトを見たことがある	サイトにアクセスしてお金を請求され困ったことがある	プロフやゲームサイトで知り合った人とやりとりしたことがある
使っていない(n=22)	-	27.3 %	-	-	9.1 %
30分未満(n=205)	3.9 %	27.3 %	2.4 %	0.5 %	5.4 %
30分以上1時間未満(n=188)	2.1 %	37.2 %	1.6 %	1.6 %	7.4 %
1時間以上2時間未満(n=228)	3.9 %	46.1 %	3.1 %	6.6 %	14.9 %
2時間以上3時間未満(n=109)	3.7 %	60.6 %	4.6 %	3.7 %	22.0 %
3時間以上(n=129)	5.4 %	69.0 %	7.8 %	8.5 %	30.2 %
	自分が知らない人や、お店などからメールが来たことがある	プロフなどに自分や他人の情報を書き込んだことがある	悪口やいやがらせのメールを送ったり、書き込みをしたことがある	プライバシーを侵害したり、差別的な内容が掲載されているサイトにアクセスすることがある	チェーンメールを転送したことがある
使っていない(n=22)	9.1 %	-	-	-	13.6 %
30分未満(n=205)	7.3 %	2.0 %	-	1.0 %	4.9 %
30分以上1時間未満(n=188)	9.0 %	1.6 %	-	-	8.5 %
1時間以上2時間未満(n=228)	11.8 %	4.8 %	0.9 %	0.9 %	10.1 %
2時間以上3時間未満(n=109)	15.6 %	10.1 %	-	2.8 %	8.3 %
3時間以上(n=129)	23.3 %	19.4 %	0.8 %	0.8 %	21.7 %
	プロフやゲームサイトで知り合った人と会ったことがある	インターネットにのめりこんで勉強に集中できないことがある	夜遅くまでインターネットにのめりこんで睡眠不足になることがある	あてはまるものがある(計)	
使っていない(n=22)	-	-	4.5 %	36.4 %	
30分未満(n=205)	1.0 %	7.3 %	4.4 %	39.5 %	
30分以上1時間未満(n=188)	2.1 %	3.2 %	5.3 %	44.7 %	
1時間以上2時間未満(n=228)	3.9 %	11.4 %	8.3 %	58.8 %	
2時間以上3時間未満(n=109)	2.8 %	13.8 %	15.6 %	72.5 %	
3時間以上(n=129)	7.8 %	20.2 %	22.5 %	78.3 %	

## 「あてはまるものがある(計)」【携帯電話のインターネット利用時間層別】

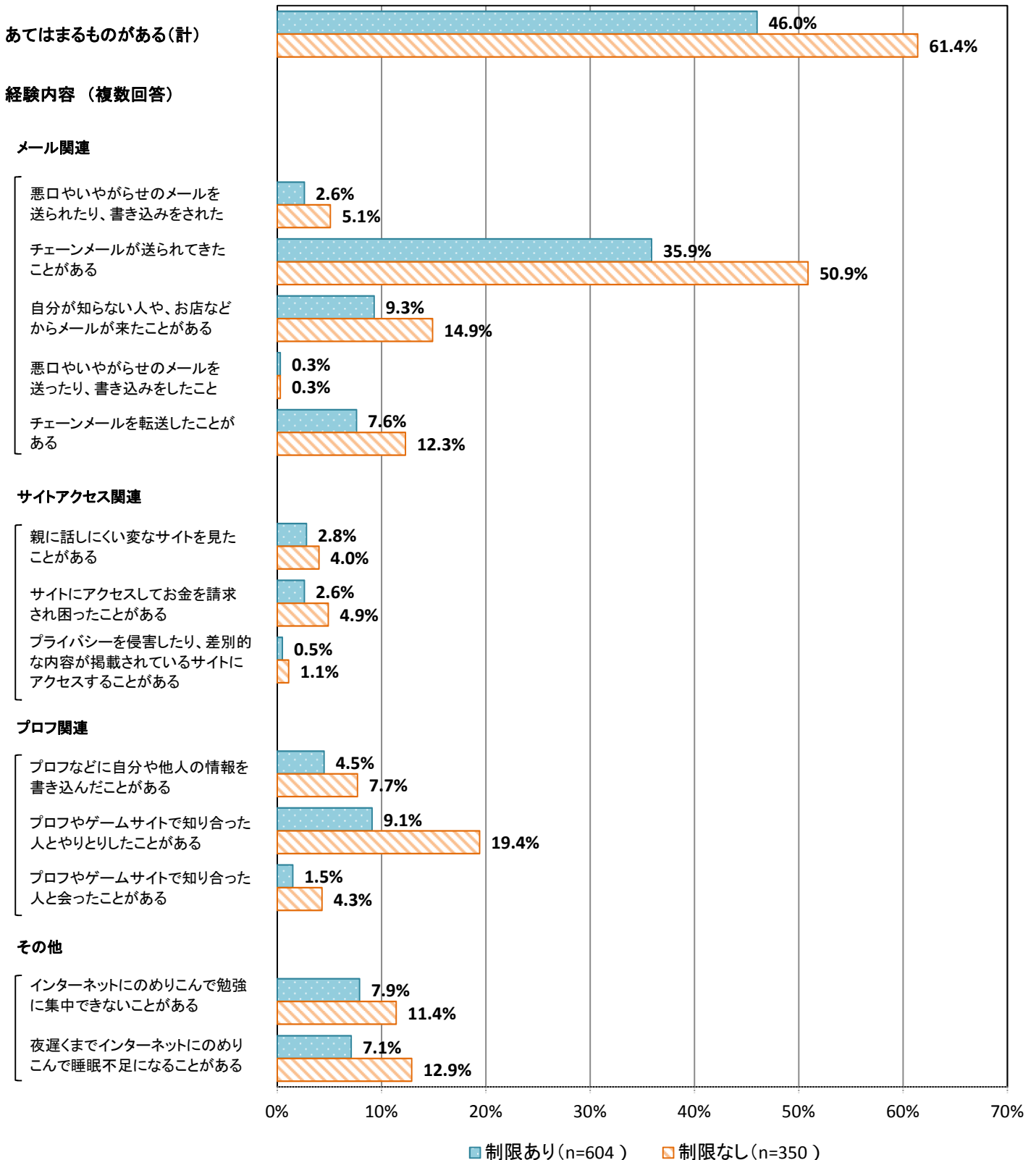


# 青少年のインターネット上の経験【携帯電話のフィルタリングの有無別】

(青少年調査Q18×保護者Q6)

○青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験についてフィルタリング(インターネットが使えない機種・設定を含む。以下同じ。)の有無別に見ると、ほぼすべての項目において、フィルタリング無しの方が有りよりも経験率が高い。

## 青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験【携帯電話のフィルタリングの有無別】



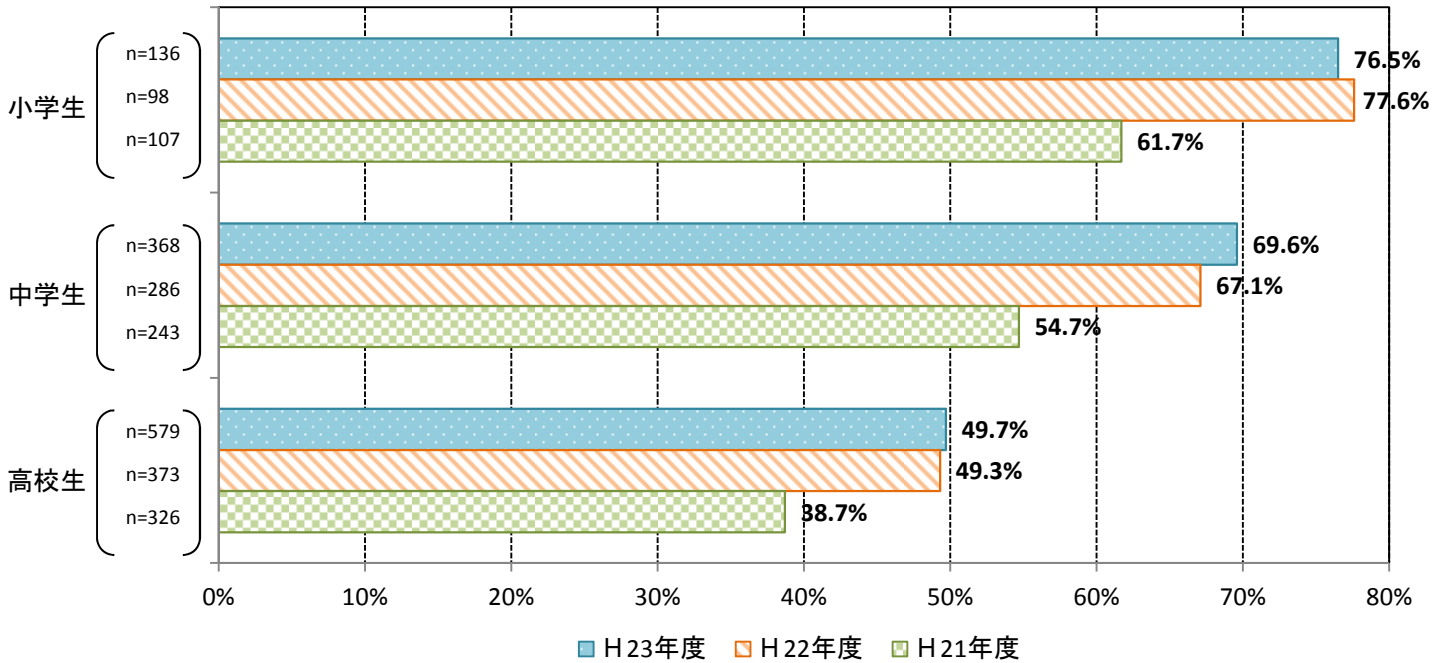


## フィルタリング利用率(携帯電話)

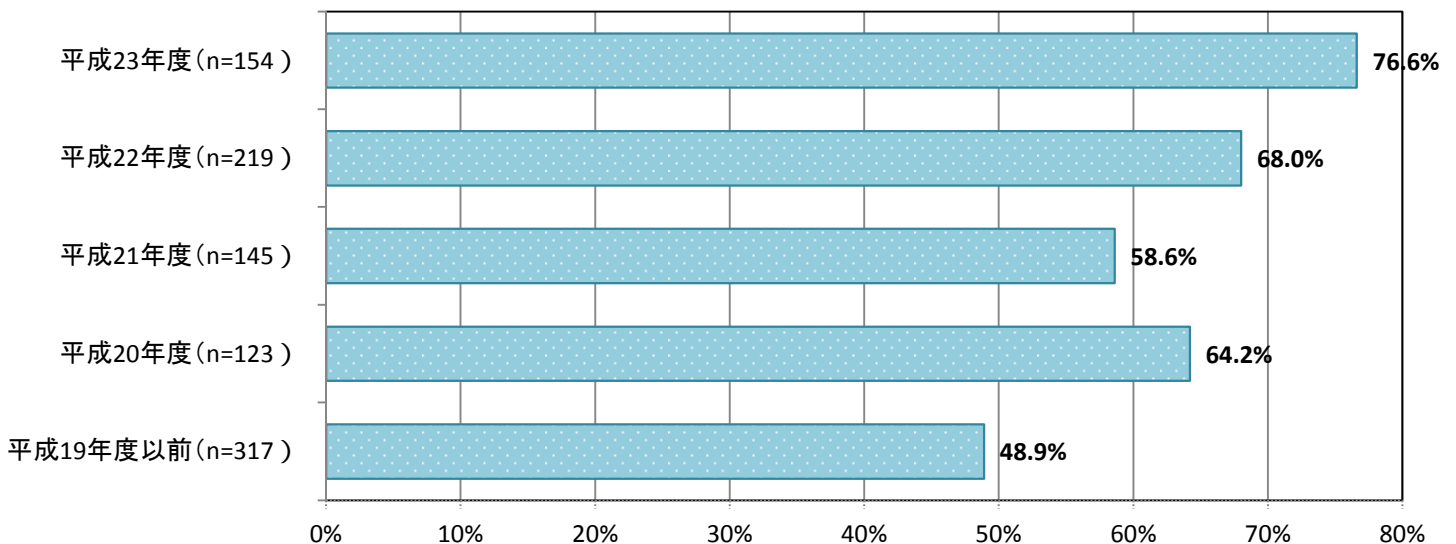
(保護者調査Q6)

- 携帯電話のフィルタリング利用率は、小学生で7割台後半、中学生で約7割、高校生で約5割であり、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較すると、「H22年度」の調査結果から大きな増減は見られない。
- 携帯電話の購入時期で見ると、平成19年度以前は5割弱と最も低いのに対し、平成23年度は7割台後半と最も高く、概ね増加傾向。

フィルタリング利用率(携帯電話)



フィルタリング利用率(携帯電話)(購入時期<sup>※</sup>別)



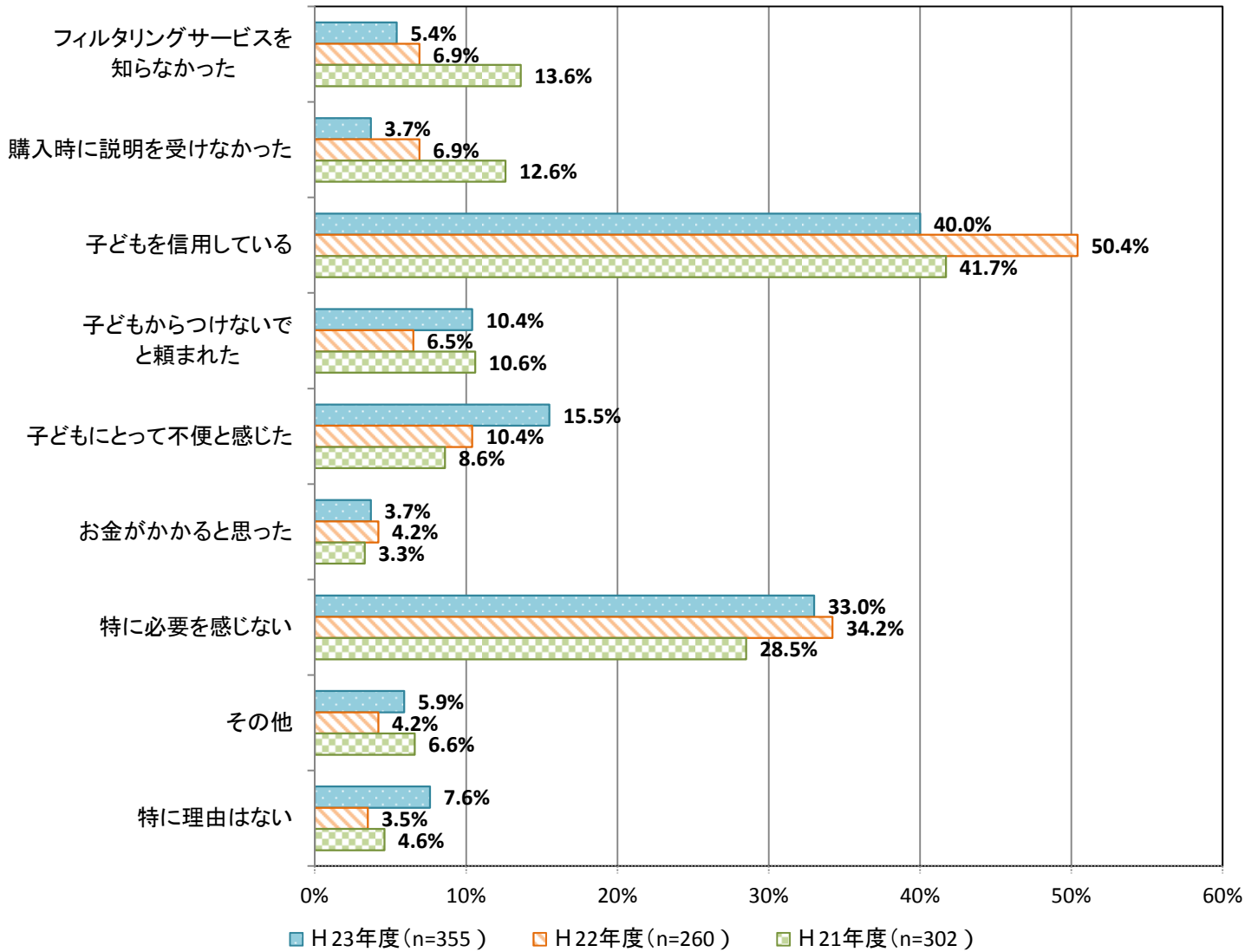
※ 「購入時期」は、青少年の現在の学年(青少年調査F3)と使い始めた学年(青少年Q3)から算出。以下同じ。

## フィルタリングを利用しない理由(携帯電話)

(保護者調査Q7)

○フィルタリングを利用しない理由について保護者調査の結果を見ると、「(保護者が)子どもを信用している」が最も多く、次いで「特に必要を感じない」が多い。

フィルタリングを利用しない理由(携帯電話) (複数回答)

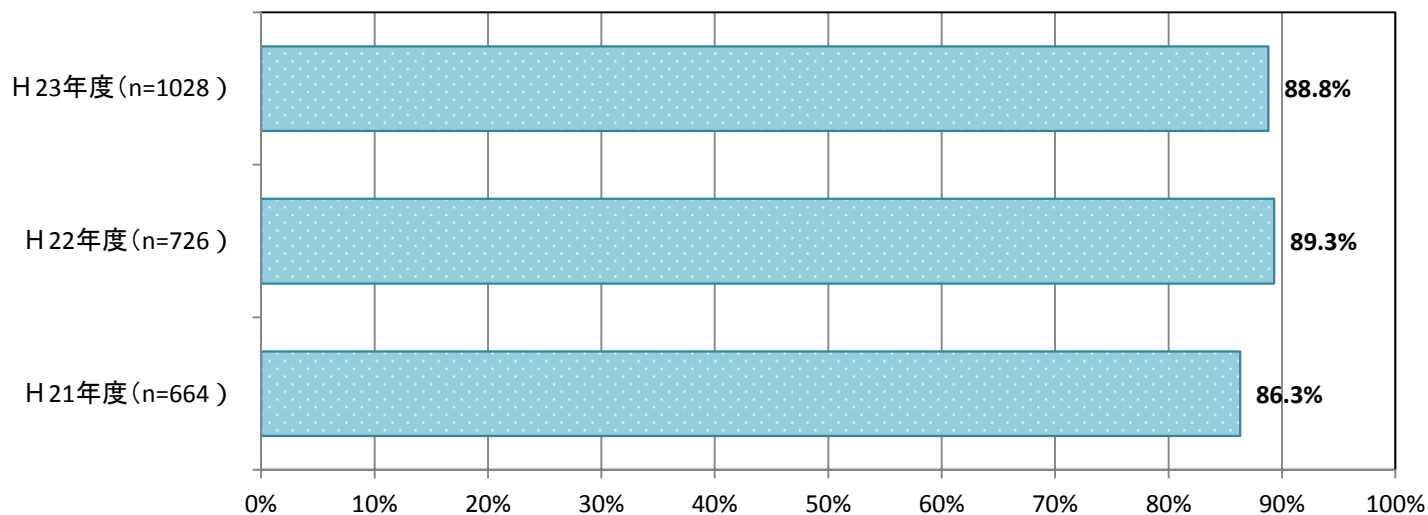


## 携帯電話購入の際における「子どもが使用する」旨の保護者の申告

(保護者調査Q9)

○青少年のために携帯電話を購入する際に販売業者に対して「子どもが使用する」旨を申告したかについて「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較すると、9割弱と横ばい傾向。

携帯電話購入の際における「子どもが使用する」旨の保護者の申告

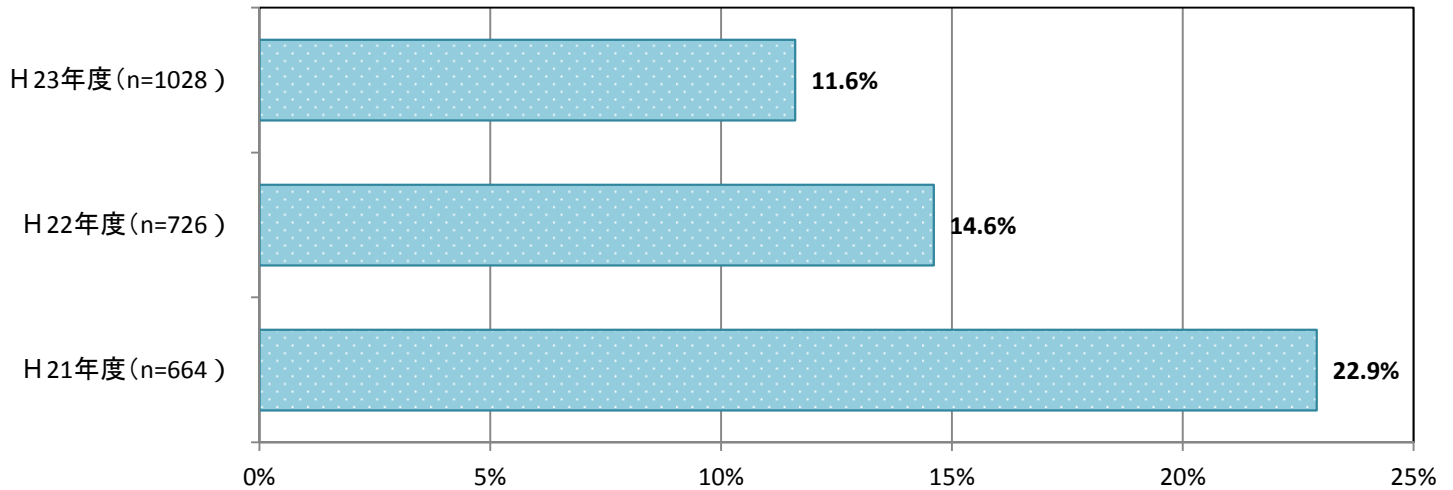


## 携帯電話購入の際における販売業者の説明

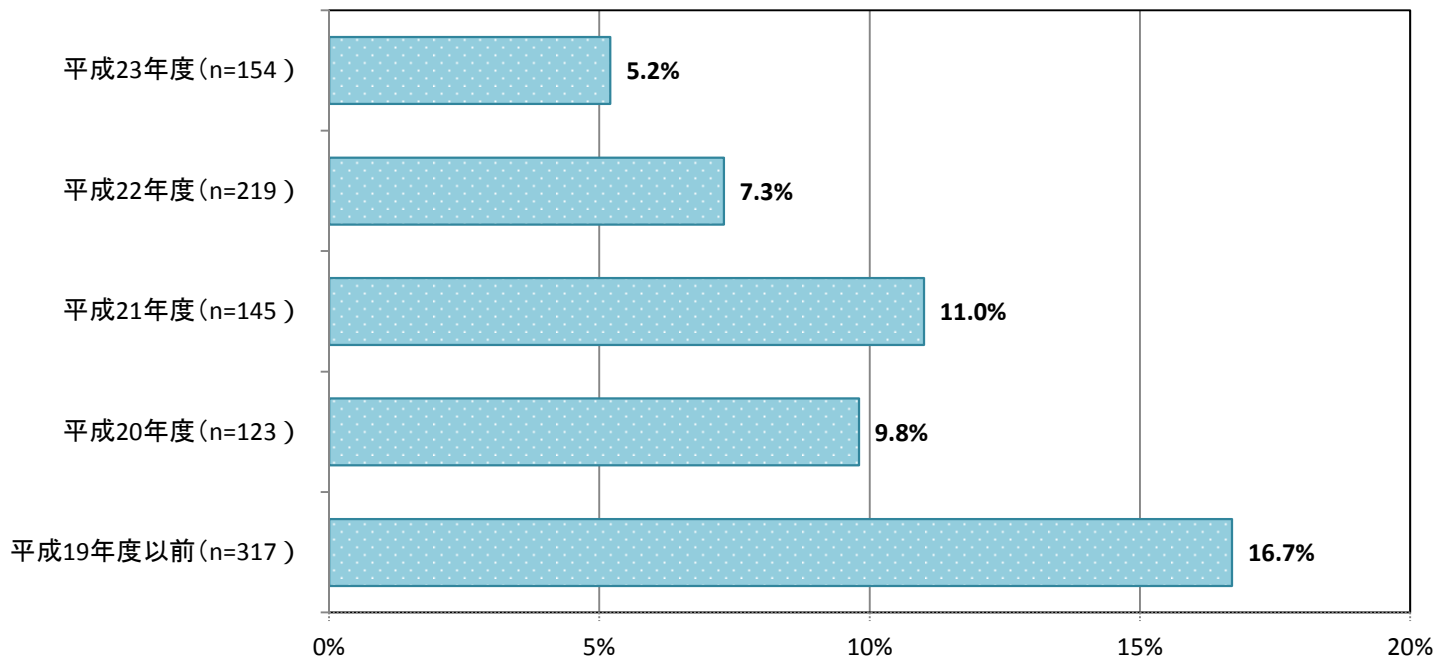
(保護者調査Q10)

- 携帯電話を購入する際に販売業者からフィルタリングに関する「説明がなかった」とする回答は約1割強と、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較して減少傾向が見られる。
- 携帯電話の購入時期別に見ても、平成21年度を除き、減少傾向にある。

### 携帯電話購入の際に、フィルタリングに関する販売業者の「説明がなかった」との回答



### 携帯電話購入の際に、フィルタリングに関する販売業者の「説明がなかった」との回答【購入時期別】※



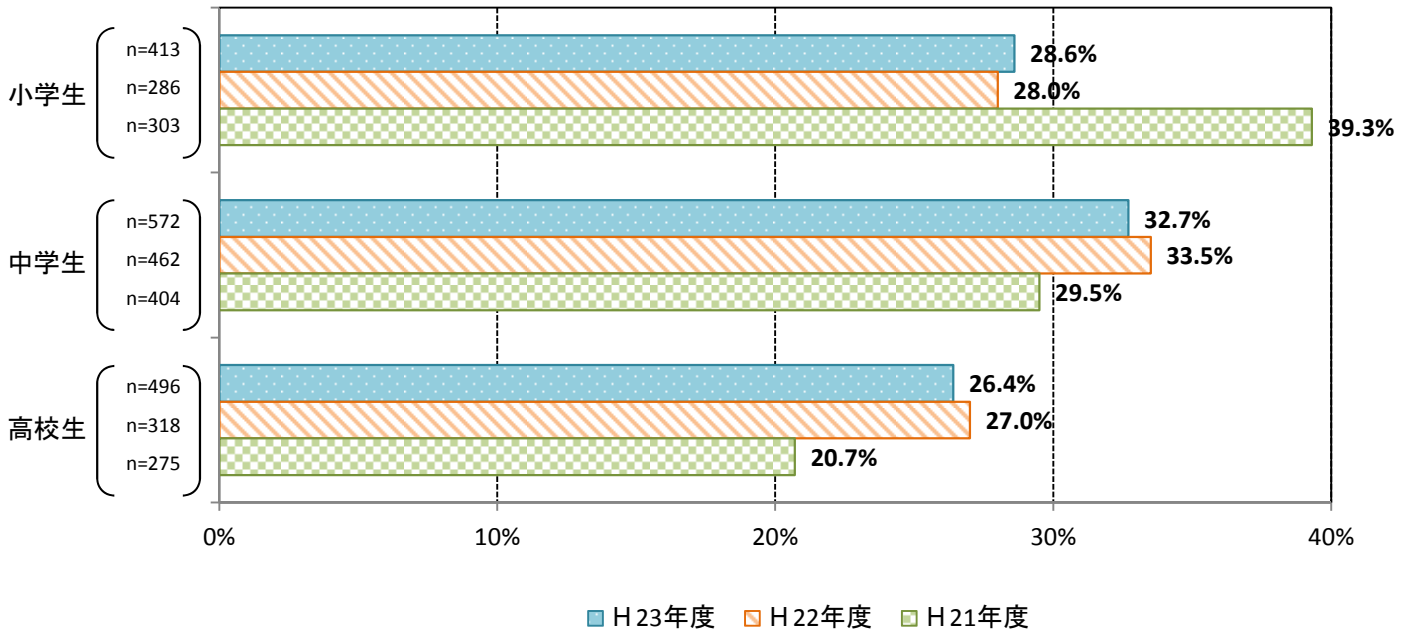
「青少年(小中高生)とその保護者(父母)ともに回収できた1938組中、「子どもが自分専用の携帯電話を所有」と回答した保護者958人をベースに集計。

# フィルタリング利用率(パソコン)

(保護者調査Q14)

- パソコンのフィルタリング利用率は、小学生で3割弱、中学生で3割台前半、高校生で2割台後半。
- 「H21年度」及び「H22年度」の調査結果と比較すると、いずれの学校種でも、「H22年度」の調査結果と大きな違いは見られない。

### フィルタリング利用率(パソコン)

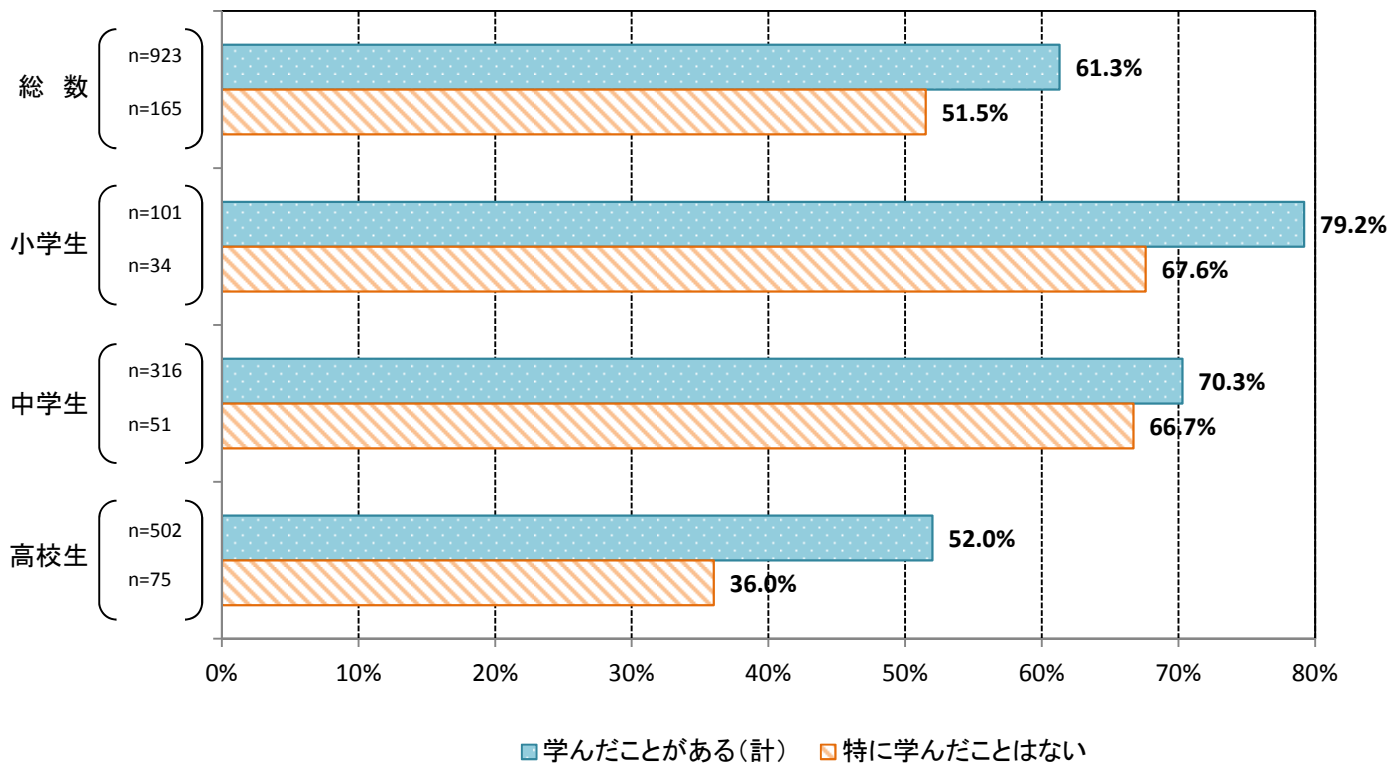


## フィルタリング利用率(携帯電話／パソコン)【啓発経験の有無別】

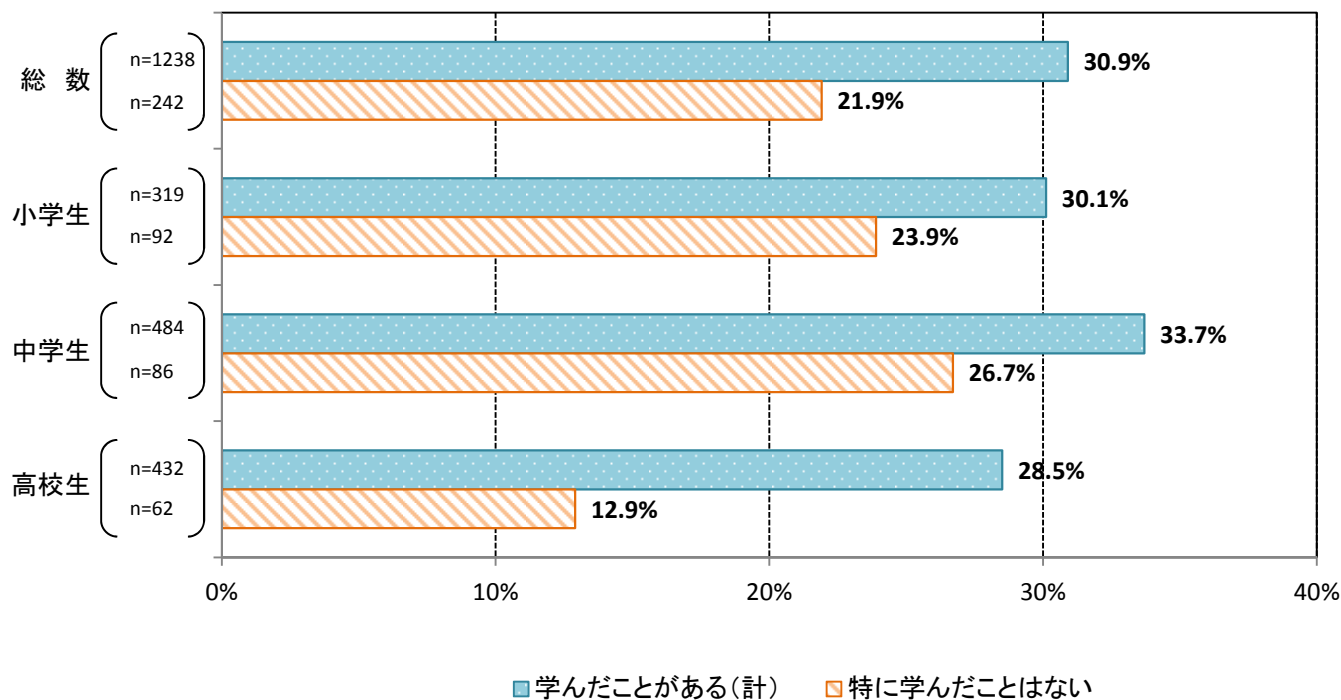
(保護者調査Q6、Q14×Q24)

○フィルタリング利用率について保護者の啓発経験の有無別に見ると、携帯電話とパソコンの双方において啓発経験有りの方が無しより高い。

### フィルタリング利用率(携帯電話)【啓発経験の有無別】



### フィルタリング利用率(パソコン)【啓発経験の有無別】

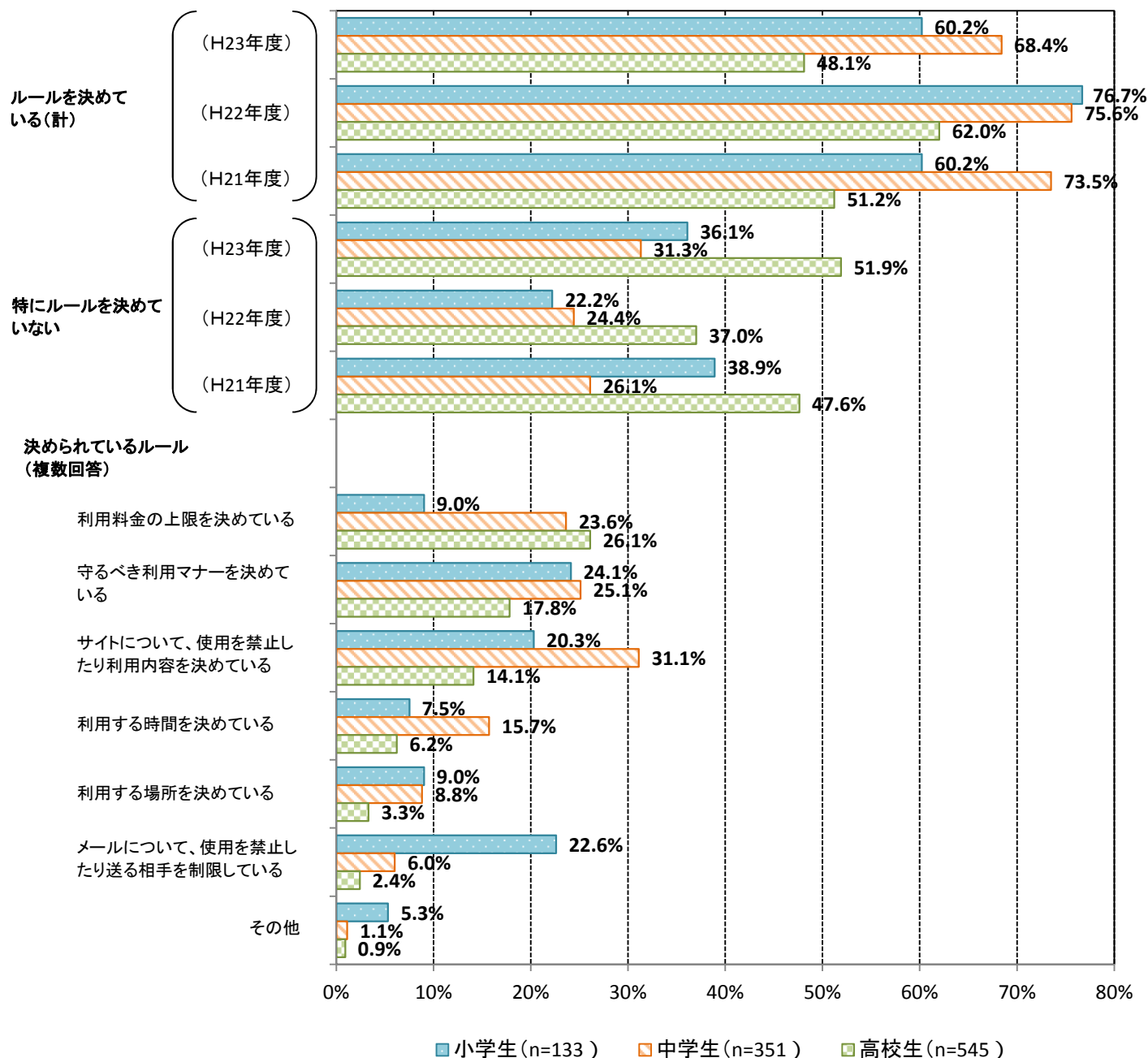


# 「家庭のルール」(携帯電話)

(青少年調査Q8)

○携帯電話についてなんらかの家庭のルールを決めている家庭は、小学生では約6割、中学生では7割弱、高校生では5割弱であり、「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較すると、いずれの学校種でも最も低い数値となっている。

## 家庭でのルールづくり(携帯電話)



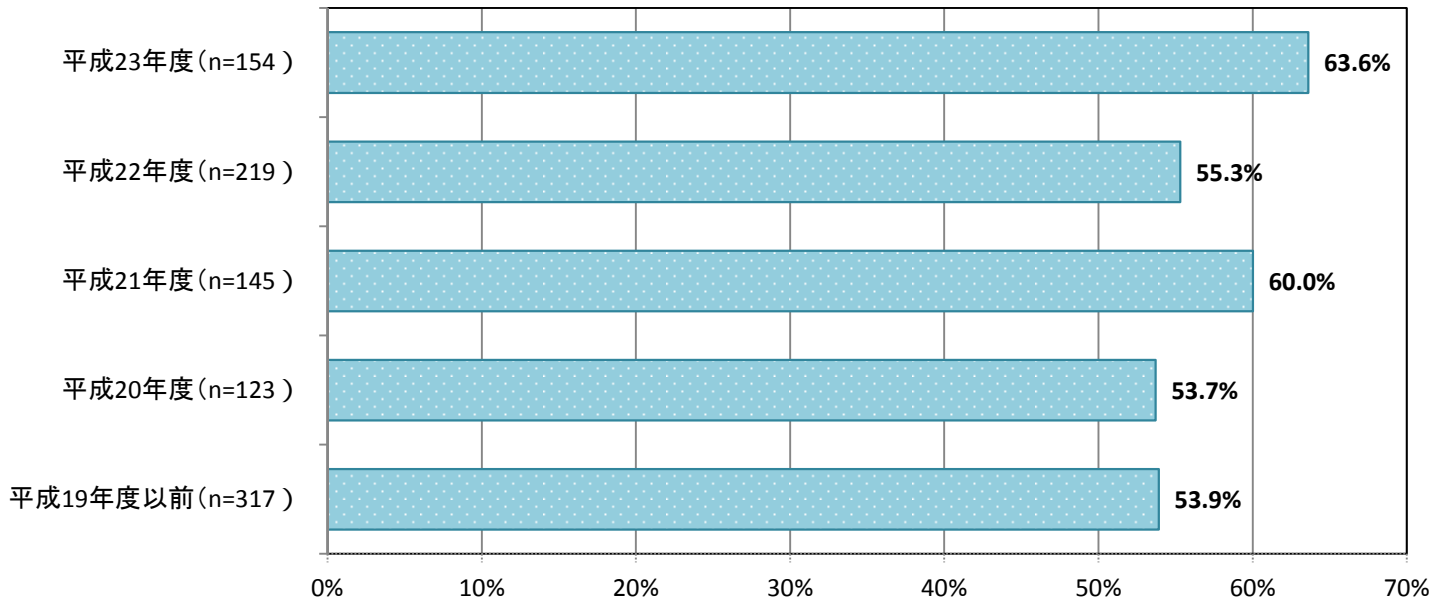
H22年度のサンプル数: 小学生(n=90) 中学生(n=266) 高校生(n=332)  
 H21年度のサンプル数: 小学生(n=108) 中学生(n=245) 高校生(n=332)

# 「家庭のルール」(携帯電話)【携帯電話の購入時期別／啓発経験の有無別】

(青少年調査Q8×F3・Q3/Q20)

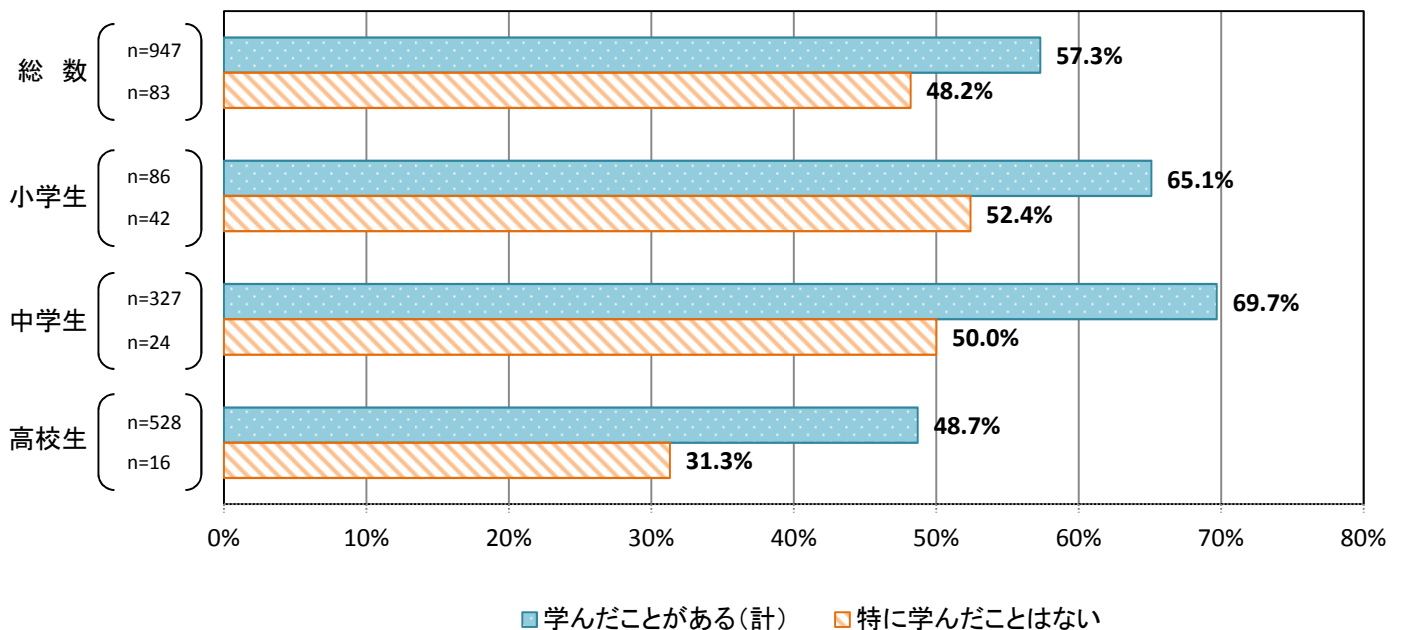
- 携帯電話の使い方についてなんらかのルールを決めている家庭について携帯電話の購入時期別に見ると、平成22年度以前はいずれも5割台であるのに対し、平成23年度は6割前半。
- 携帯電話についてなんらかのルールを決めている家庭について学習経験の有無別に見ると、学習経験がある青少年の方が割合が高い(総数では約9ポイントの差。)

「ルールを決めている(計)」(携帯電話)【携帯電話の購入時期別】



「青少年(小中高生)とその保護者(父母)ともに回収できた1938組中、「子どもが自分専用の携帯電話を所有」と回答した保護者958人をベースに集計。

「ルールを決めている(計)」(携帯電話)【啓発経験の有無別】





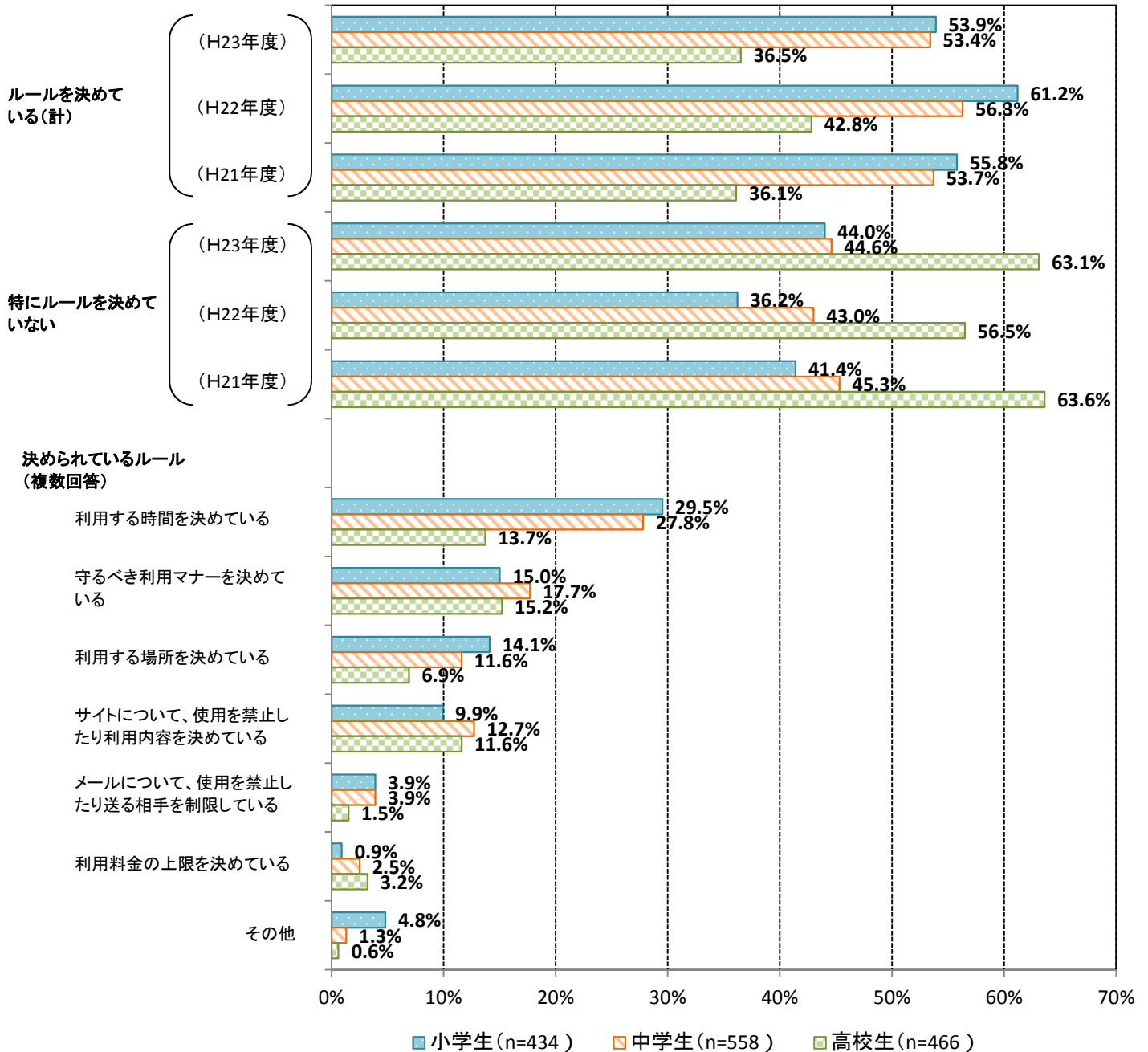
# 「家庭のルール」(パソコン)

(青少年調査Q16)

○パソコンについてなんらかの家庭のルールを決めている家庭は、小学生と中学生では5割台前半、高校生では3割台後半。

○「H21年度」と「H22年度」の調査結果と比較すると、小学生と中学生では最も低い数値となっている。

## 家庭でのルールづくり(パソコン)



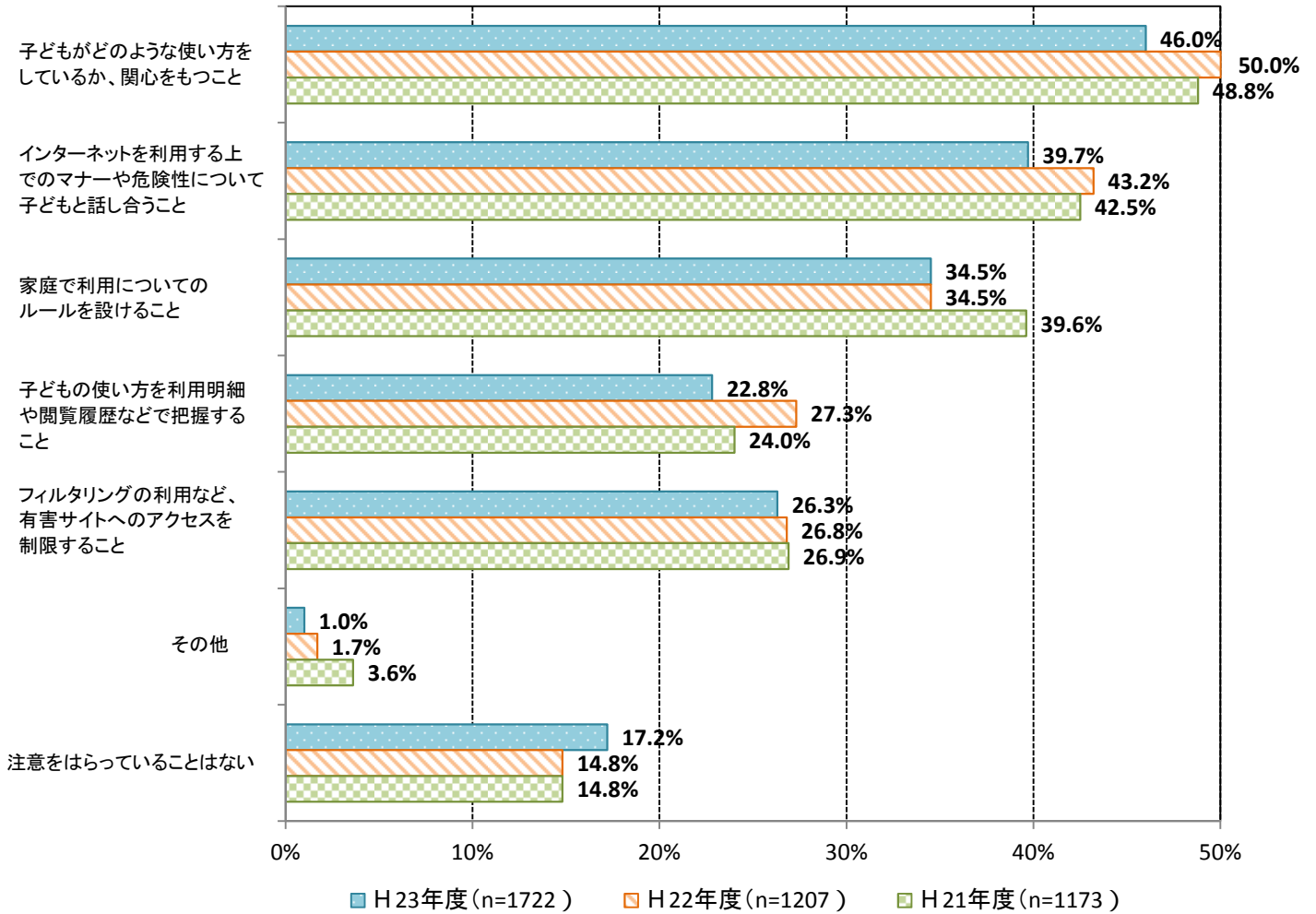
H22年度のサンプル数:小学生(n=276) 中学生(n=428) 高校生(n=285)  
 H21年度のサンプル数:小学生(n=321) 中学生(n=404) 高校生(n=269)

## 保護者の管理(ペアレンタルコントロール)

(保護者調査Q19)

○「H21年度」と「H22年度」の調査結果と同様、「関心をもつこと」(4割半ば)が最も多く、「インターネットを利用する上でのマナーや危険性について子どもと話し合うこと」(約4割)、「家庭での利用についてのルールを設けること」(3割半ば)が続く。

### 青少年の携帯電話やパソコンの使用について注意していること (複数回答)

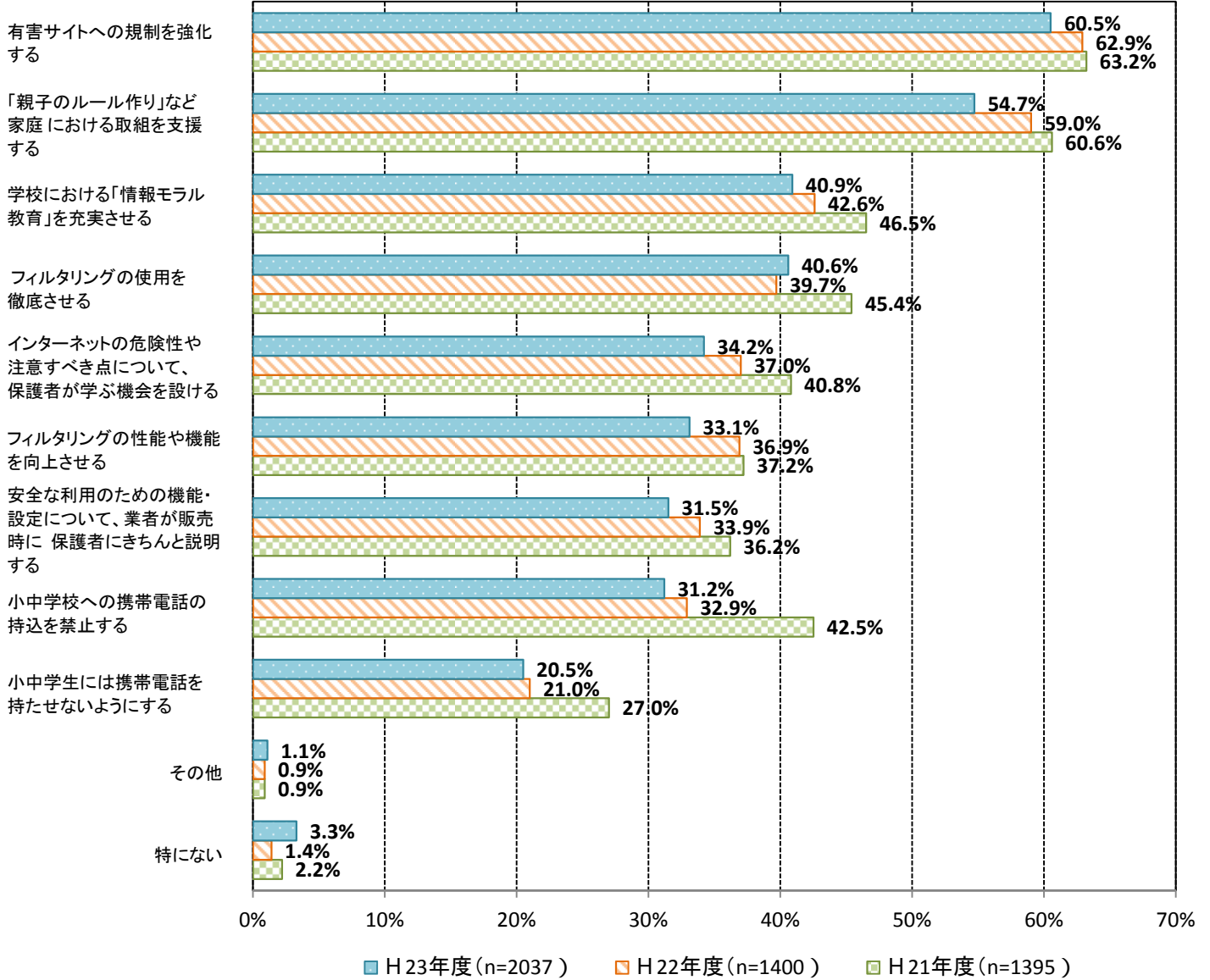


# 子どものために必要な取組

(保護者調査Q29)

○「H21年度」と「H22年度」の調査結果と同様、「有害サイトへの規制を強化する」と「家庭における取組を支援する」が他の取組よりも多い。

子どものインターネット利用に必要な取組（複数回答）

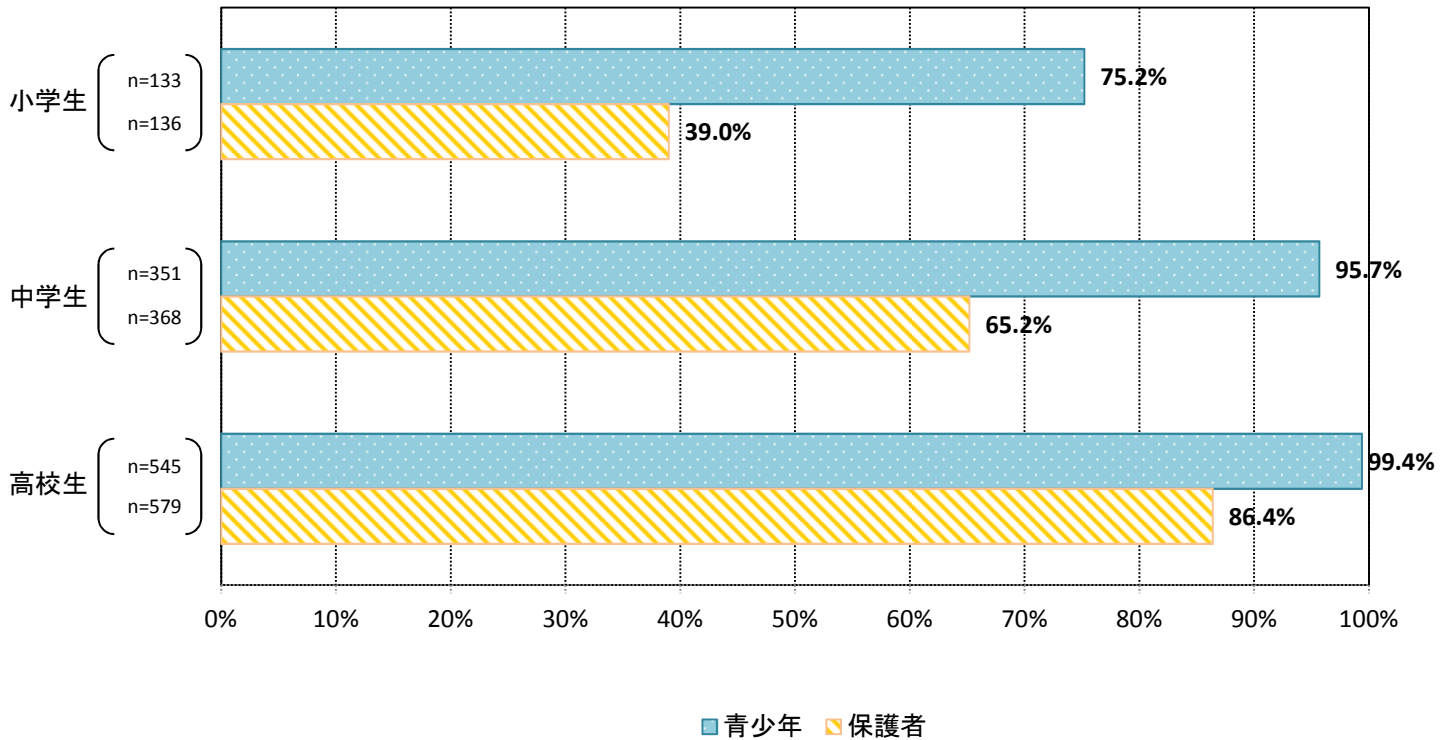


## インターネット利用率(携帯電話)＜青少年と保護者の比較＞

(青少年Q4・5&保護者Q5)

○携帯電話所有青少年のインターネット利用について青少年の回答と保護者の回答を所有者ベースにて比較したところ、いずれの学校種においても、青少年の回答が保護者の回答を上回っており、特に小学生では約36ポイント、中学生では約31ポイントと大きな差がある。

携帯電話所有青少年のインターネット利用＜青少年と保護者の比較＞

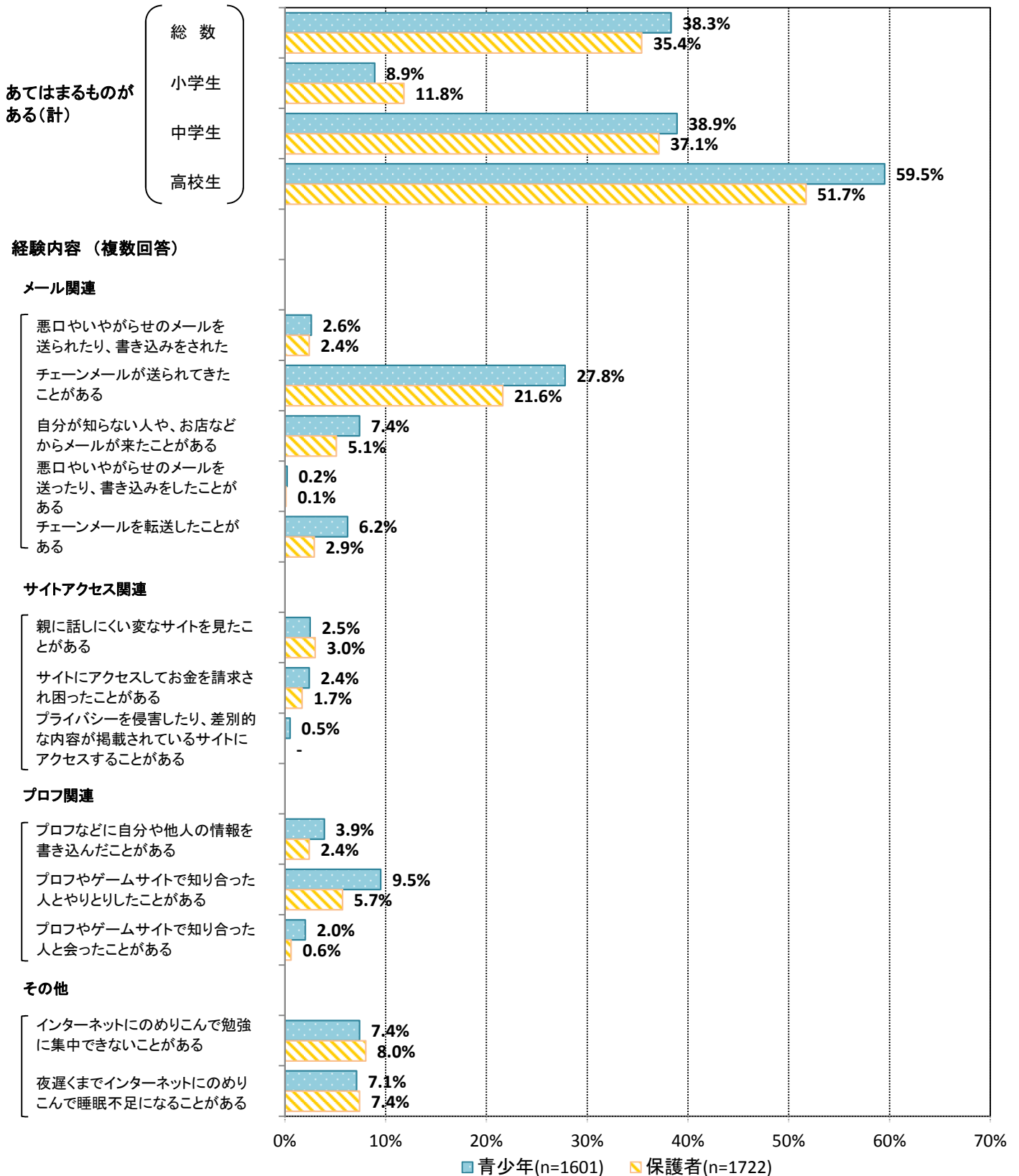


# 青少年のインターネット上の経験＜青少年と保護者の比較＞

(青少年Q18&保護者Q20)

○青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験についてなんらかの経験があるとの回答につき青少年と保護者を比較したところ、小学生では青少年の回答が保護者の回答を下回っているのに対し、中学生ではほぼ同じとなり、高校生では青少年の回答が保護者の回答を上回っている。

## 青少年のインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験＜青少年と保護者の比較＞



小学生のサンプル数: 青少年 (n=425) 保護者 (n=466)

中学生のサンプル数: 青少年 (n=606) 保護者 (n=647)

高校生のサンプル数: 青少年 (n=563) 保護者 (n=600)

## 「家庭のルール」(携帯電話) < 青少年と保護者の比較 >

(青少年Q8 & 保護者Q11)

○携帯電話の使い方についてなんらかの家庭のルールを決めているとの回答について青少年と保護者を比較したところ、いずれの学校種においても、青少年の回答が保護者の回答を下回っており、特に高校生では約27ポイントの差がある。

### 「家庭のルールを決めている(計)」(携帯電話) < 青少年と保護者の比較 >

